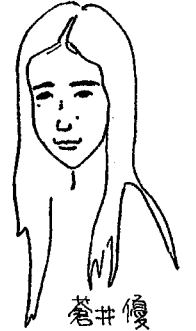




ニナガワオセロー、来る

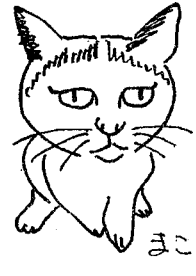
どうしても生で観たい。この数ヶ月、ひたすらうらやましい顔をして、舞台がある。10月末にオセロー、ルで上演される、彩の国ツェイクスピア、シリウスオセローだ。

「オセロー」といえば、ツェイクスピア四大悲劇の一つ。これまで幾度となく上演されてきた。その作品、今回芸術監督を務めるのは、演出家、蜷川幸雄だ。



「素養」と「中華人民共和教育」の2つの。よく知られる「日中二千年の漢字のつきあい」というシリーズの最終巻。

「不思議顔の猫」最近多いブログの「不思議顔の猫」の顔が、猫の顔を凝視して、表情をしてみます。



「暴走老人」9月10日、真夏日が例年よりも暑い。暑く、暴走老人の騒音も、若者から引かれる。

「暴走老人」老人は暴走しているのか、実は疑問でなく、現実がある。本が出た。タイトル「暴走老人」。

編集後記：冒頭の「建築に萌えるやつら」の稿にある「夢と魅惑の全体主義」は前に買ったけれど、読みとあることができなくて、投げ出していたもの。それが「萌え」をキーワードに手際よく紹介されていて脱帽。ということ、今回、私ばかりではない。そのせいか、いくぶん若々しい内容となった。